

人工衛星搭載ハイパースペクトルセンサがとらえた

東京湾（2）

データ収集：米国航空宇宙局（NASA）

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

前掲の観測波長帯以外で観測された Hyperion データを並べてみました。上段は可視域、下段は近赤外域の観測波長帯において観測されたデータです。Hyperion データは、10nm 毎に観測されることから、水域の分析精度が高まることは言うまでもありません。水域部では、一般に 400nm 付近で高い反射率を示しますが、近赤外域の観測画像（下段）においても水域部のパターンの違いが現れていることは興味深い点です。可視域と近赤外域の観測波長帯で観測されるデータの違いを利用して、より詳細に水域の分析が展開できるものと期待できます。Hyperion データは水域環境の分析において新たな知見を導いてくれるはずです。

